

年齡：

投与薬剤	投与量	投与 時間	投与スケジュール		
			Day1	Day8	Day15
パドセブ	mg (1.25mg/kg 上限：125mg)	30 分	●	●	×
キイトルーダ	200mg (200mg/body)	30 分	●	×	×

--

□HBV-DNA 定量(+) → 消化器内科紹介

指示医師サイン

免疫チェックポイント阻害薬 副作用対応連携シート

副作用	主な自覚症状	検査項目	ペースイング (投与開始時) ○実施	モニタリングの目安	専門医へのコンサルトのタイミング
			胸部X線 胸部CT KL-6 SP-D	投与時 ○ 疑い時 ○ 2か月毎に2回	
間質性肺炎	発熱、空咳、息苦しい、息切れ	TSH・FT3・FT4	○	月1回	【甲狀腺】 症状出現（倦怠感や動悸など）、TSH・FT3・FT4に異常が認められた際、TSHレセプター抗体、抗チログロブリン抗体、抗TPO抗体を1回測定し、自己抗体陽性で症状発現時はコンサルト 【副腎】 ACTH・コルチゾールを測定した際、コルチゾール低値の場合にコンサルト
		抗チログロブリン抗体 抗TPO抗体 TSHレセプター抗体 IPTH	○ ○ ○	疑い時 疑い時	
内分泌障害	甲狀腺機能低下症：身体がだるい、体重増加、徐脈、便秘、食欲低下など 甲狀腺機能亢進症：汗をかきやすい、体重が減る、甲狀腺のはれ、胸がドキボキする、手の震え、不眠、発熱、下痢、振戦、食欲低下 副腎機能不全：身体がだるい、意識がうるる、考えがまとまらない、嘔吐、むかむかする、食欲不振、低血圧、脱力感 副甲狀腺機能低下症：手足の筋力の痙攣、手足口の周りにぶくれ	ACTH コルチゾール	○	月1回	Grade2以上の下痢、排便回数の増加が認められた場合（ペースイングと比べ4～6回/日以上の排便回数増加） 腹痛・下血・便失禁・発熱に特に注意 目が下がってくる（眼瞼下垂） 飲み込みにくい（嚥下障害） 症状発現時あるいは、CPK1000IU/L以上の場合にコンサルト
		排便回数 腹部CT 大腸内視鏡検査 CPK	○ ○ ○	投与時 疑い時 投与時	
大腸炎 重度の下痢	下痢（軟便）もしくは通夜おむつ頻回の便通、血便もしくは黒タール便で粘着質の便、重度の腹部痛もしくは圧痛	AChR抗体	-	疑い時	血糖値が、急激に上昇した場合にコンサルト
		HbA1c グリコアルブミン 血糖 検尿（尿ケトン体） Cペプチド	○ ○ ○ -	月1回 疑い時 投与時 疑い時	
重症筋無力症 筋炎	重症筋無力症：上まぶたが下がる、物がだぶって見える、飲み込みにくい、しゃべりにくい、呼吸困難 筋炎：身体に力が入らない、発熱、飲み込みにくい、息苦しい、発疹、筋肉の痛み	AST ALT γ-GTP ALP T-Bil D-Bil LDH	○	投与時	Grade2以上の皮膚障害
		HbS抗体・HbC抗体 HCV抗体 PT APTT フィブリノーゲン 心筋トロポニンT NTproBNP Dダイマー FDP 心エコー 心電図	○ ○ ○	感染歴がある方は3か月毎にDNA量を測定 疑い時	
1型糖尿病	糖尿病：身体がだるい、体重減少、のどの渇き、水を多く飲む、尿の量が増える 糖尿病性ケトアシドーシス：意識の低下、悪心、嘔吐、腹痛	Na K Cl Ca P TP ALB UA AMY BUN Cr 血球算定（CBC） バイタルサイン	○	投与時	左記の自覚症状の発現、又はGrade2以上の肝機能障害が認められた場合にコンサルト
皮膚障害	湿疹、かゆみ		○	投与時	左記の自覚症状の発現、又は検査値の異常時にコンサルト
肝障害	倦怠感、黄疸、嘔吐・嘔気、食欲不振、そう痒感		○	投与時	左記の自覚症状が発現した場合にコンサルト
心血管障害	心不全、心筋炎、心房細動、深部静脈血栓		○	投与時	左記の自覚症状の発現、又は検査値の異常時にコンサルト
眼障害	充血、霧視、羞明、眼痛		○	投与時	左記の自覚症状が発現した場合にコンサルト
その他			○	投与時	

※検査オーダーは検査シート、統合シートを作成していますので、そちらより使用してください

死亡例が報告されています。早めに専門医へのコンサルトをお願いします